

2016 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

十人十色の考え方

(原文)

高須 結乃 (12 歳)

和歌山県

近畿大学附属和歌山中学校

よりよい未来をつくる教育。私は「話し合い」が重要になってくると思います。

数学、国語、理科、社会など、ほとんどの教科には 1 つしか答えがありません。しかし話し合いには数々の答えがあります。この点が重要になると思います。

「十人十色」という言葉のとおり、一人一人、考え方が違います。

例えば、「人々が笑って過ごすためには」という課題を出すとします。

「私は、信らいが大切だと思うので、近所の人に自分から話かけたり、あいさつをしたりすると思います。」

「僕は、周りの人に自分を知ってもらうことが大切だと思います。」、というように数々の意見が出てきます。自分の考えだけでなく、他の人の考えも聞くことができるので、考えを広げることができます。そして、その課題に向けて一歩前進をすることができるのです。大きなことから進めるのではなく自分の今を見ること。そこから少しずつ、少しずつ課題の答えへ近づいて行くことができます。

これができれば身近な所で問題がおきたとしても少しは解決することができると思います。

大人になり会議をすることになったとします。小学生のころから話し合いをしていると、よりよい考えを生み出す事ができます。しかし授業をしていなかったら、何も進みません。

このように、小さいころから身につけていた力が、大人になってもずっと使えるものとなるのです。

私が通っていた小学校では、話し合いの授業がありました。初めころは「どうしたらいいのかな」という戸惑いもありましたが、今ではすっかり自分の意見をスラスラ言えるようになりました。このようにすぐ上達することができます。

数学も、理科も、国語も、社会も、全ての科目が必要です。しかし、今だけという限定期間でなく、これから大人になって社会に出ていくことまで考えたとしても重要な教育方針が「話し合いを取り入れること」なのだと思います。

そんなに難しいことではありません。世界中の人々ができることだと思います。

「私は〇〇と思うのだけど、どう思う？」

「私は△△だと思ったな。」

「その考えいいね！」

こんな会話を大人数でするだけなのです。そして、

「その考えいいね！」

「その考え分からないな。」と意見交換をするのです。

この力をつけておくことが社会にも、自分にも、世界にも、大切なことであると思います。

「自分一人だけの意見ではなく、みんなの様々な意見を共有していくことが未来には必要である教育であると私は思います。」